

問 11) あなた自身に不足している能力をつけるためにはどのような取り組みが効果的だと思いますか。(自由記述式)

回答の一例

- ・より多くの友人や先生と話をしてコミュニケーションを多くとる機会を得ること
- ・自分の目指す進路の経験者から話を聞く機会を多く持つこと
- ・社会人として必要なことがどんなことがあるのかを知る機会を得ること
- ・残り少ない学生生活で進路に向かうための計画を教師と一緒に検討すること
- ・人とのかかわりを増やすこと
- ・最低限の生活習慣を身に着けること
- ・コロナの影響からできることをできるうちにやっておくこと
- ・いまずぐに組み組めることを後回しにしないこと
- ・グループワークなどのみんなで協力するような授業

これらの結果から、コミュニケーションを高めるための取り組みをしたい、自分が目指したい進路先の経験者からの情報を得たい、これからの計画を立てていきたいなど、自分自身に何が足りなくて、何をすべきなのかを考えている生徒は多いが、具体的な取り組み方法について取り組み方や実践の仕方についての検討が必要であることがわかる。また、一人では実践できない項目を必要としている生徒が多いため、学校生活のなかで行える取り組みに積極的に参加できるようなカリキュラムが必要だと考えられる。

問 12) 進路指導に関して「こんな取り組みをしてほしい」など希望があれば記入してください。(自由記述式)

回答の一例

- ・もっと専門的な授業を増やしてほしい
- ・職場のリアルな現場の状況を知りたい
- ・社会人の先輩からいろいろな情報を聞いてみたい
- ・卒業後の生活や就労についてのシミュレーションを一緒にしてほしい
- ・職場体験を1か月単位など長い期間でやりたい
- ・自分に何が足りないのかのチェックをしてくれる機会が欲しい
- ・社会人として本当に必要な知識を必要なだけ教えてほしい
- ・卒業後に相談できる場所を教えて欲しい

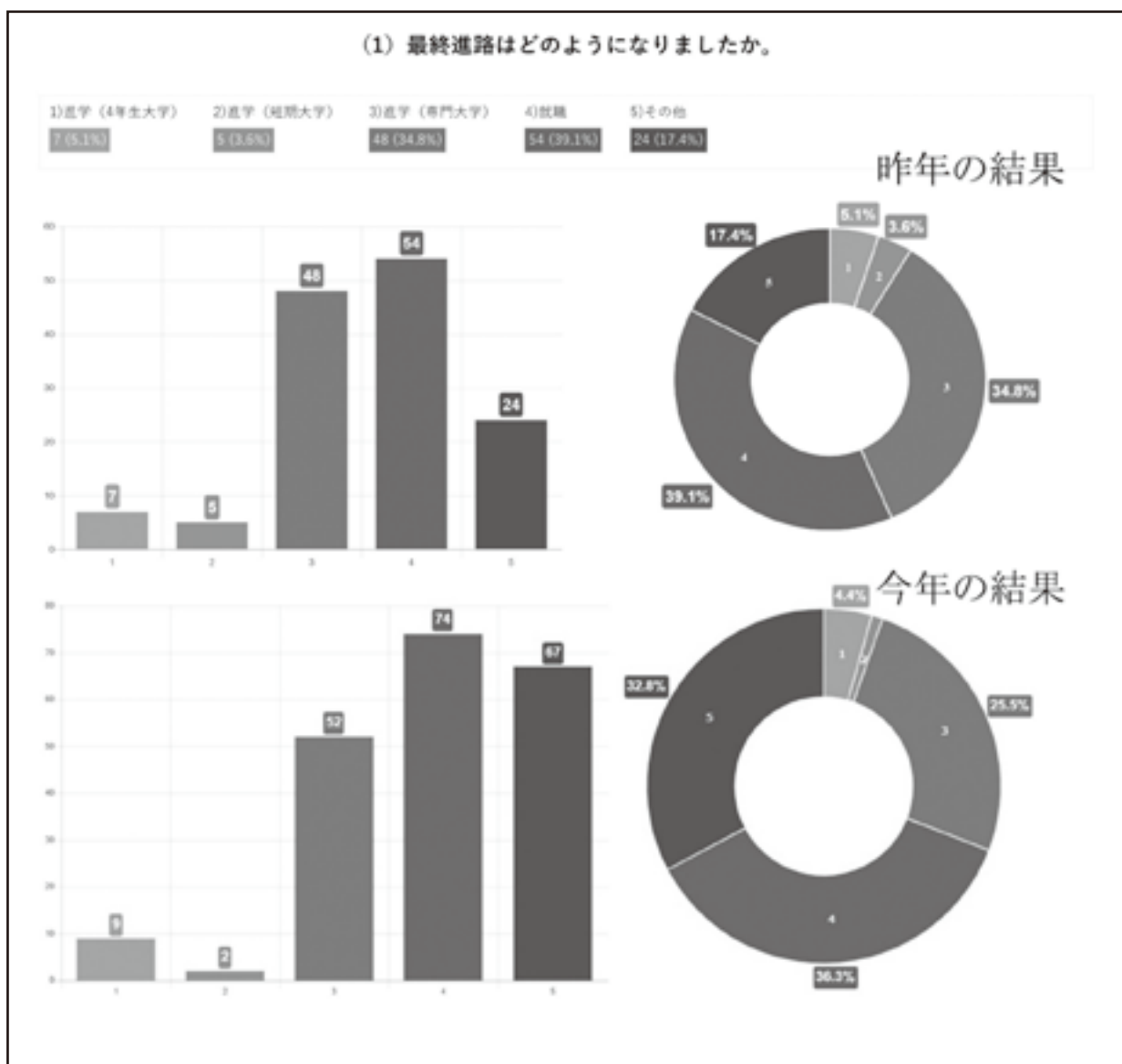
これらの結果から見ていくと、専門的な授業を増やしてほしいという要望については、即戦力として働くことができるだけの能力をしっかりと身に付けておきたいという意見が多いことが伺える。また、職場のリアルな状況や社会人の先輩から話を聞きたいという、実際に社会人として働いている人から、どのようなことに困っているのかとか、やっておくべきことは何かなどを聞く機会が欲しいとのことだろう。また、自分だけでは気づかないことや補えないことを進路指導のなかで取り組んでほしいという生徒が多いようである。これらのことから、何をすべきであるのかといった自分が今やるべきことを教えてくれる機会が欲しいという想いを持っているのではないかと推察できる。

2) 高等専修学校生3年生進路決定後アンケート調査の結果

今回のアンケート調査の結果、生徒自身がどのような活動を行い、どんな不安や課題を抱えていたかを理解するために実施した。それぞれの設問の回答にどのような傾向があるかを考察する。

問1) 最終進路はどのようになりましたか。

1. 進学（4年制大学） 2. 進学（短期大学） 3. 進学（専門学校）
4. 就職 5. その他（ ）

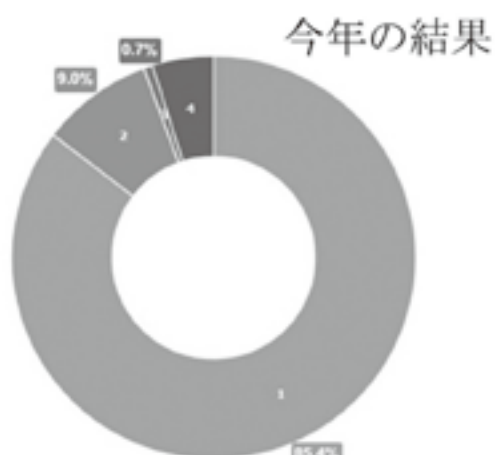
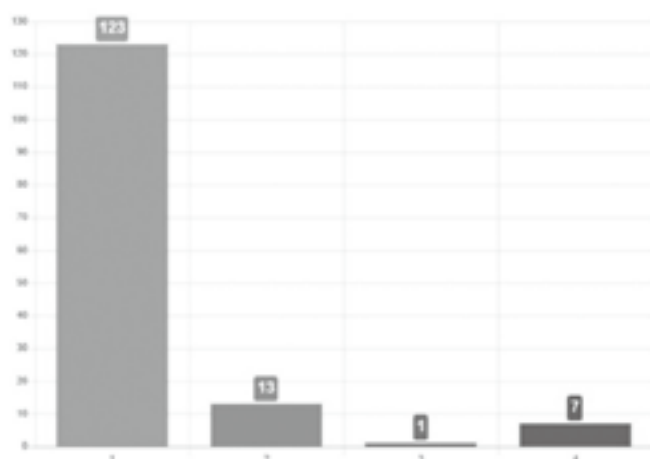
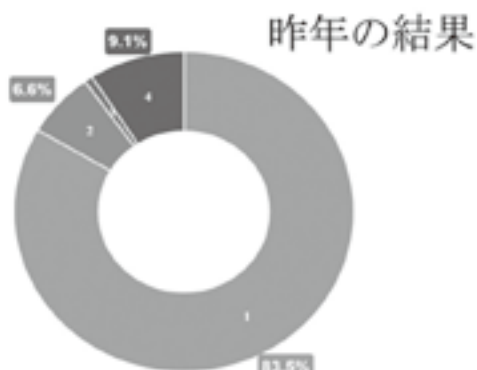
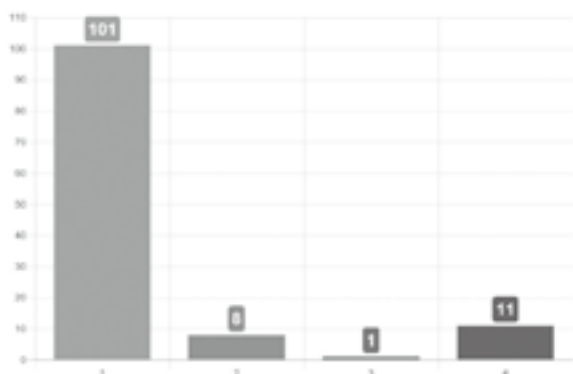


問2) 最終進路は第1希望ですか。

1. 第1希望
2. 第2希望
3. 第3希望以降
4. 希望とは全く違う進路

(2) 最終進路(1)の回答は第一希望ですか。

1) 第1希望 2) 第2希望 3) 第3希望 4) 希望とは全く違う進路
101 (83.5%) 8 (6.6%) 1 (0.8%) 11 (9.1%)



これらの考察だが、2年生のアンケートと同様に、最終進路が「その他」と回答している生徒が多く、内訳としても「未決定、まだわからない」という回答が多く上がった。

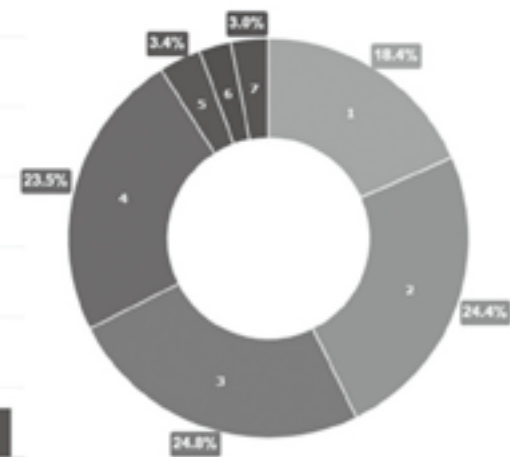
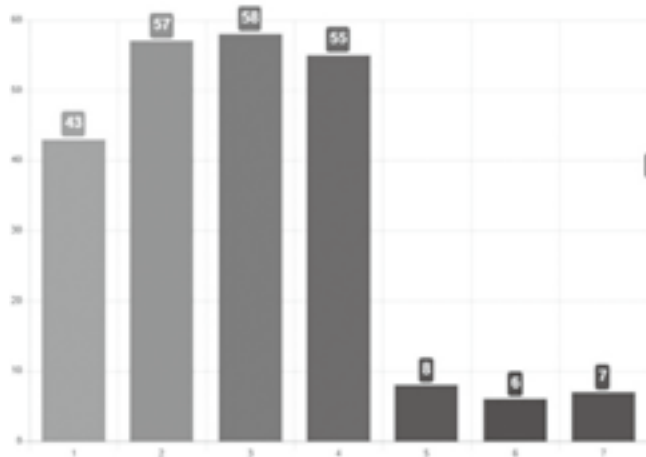
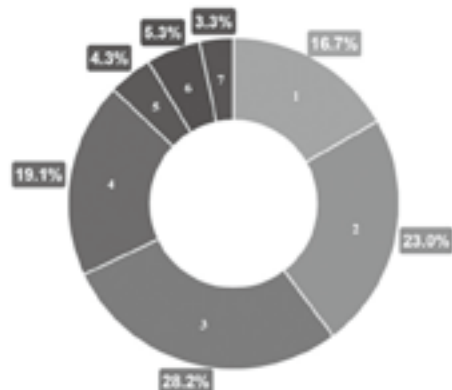
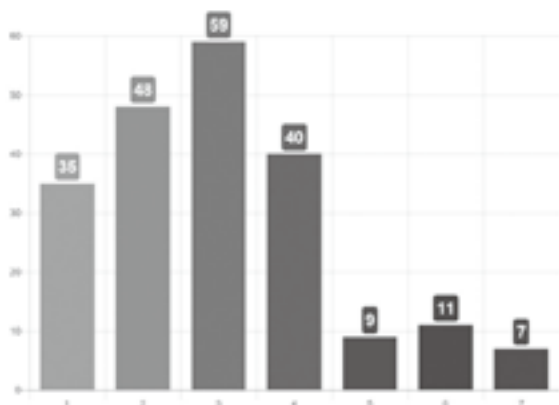
3年生の11月の時点でまだ決まっていない生徒が多いことから、新型コロナウイルスによる影響が大きいことがうかがえる。特に4月5月と学校での活動ができていないことや、就職先の求人状況の変化なども理由として挙げられるだろう。最終進路の希望については昨年との違いは大きくは見られなかった。

問3) あなたが進路決定をするまでにどのような活動を行いましたか。(複数回答可)

- 1. 学校で求人票や進学先のことを調べた
- 2. 担任や進路指導員に相談した
- 3. 親や知り合いに相談した
- 4. インターネットで調べた
- 5. 関連する資格取得を頑張った
- 6. 特に何もしていない
- 7. その他()

(3) あなたが進路決定をするまでにどのような活動を行いましたか。

1)学校で求人票や進学先の事を調べた。 35 (16.7%)	2)担任や進路に相談した。 48 (23%)	3)親や知り合いに相談した。 59 (28.2%)	4)インターネットで調べた。 40 (19.1%)
5)関連する資格取得を頑張った。 9 (4.3%)	6)特に何もしていない。 11 (5.3%)	7)その他 7 (3.3%)	

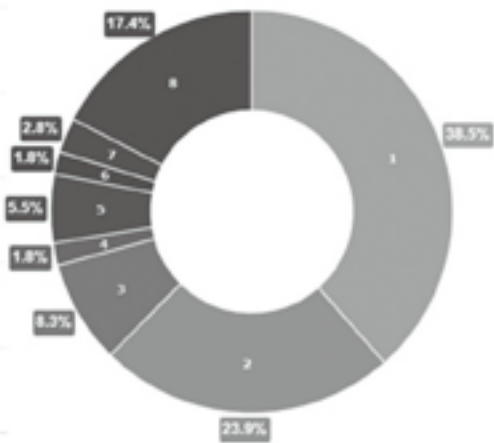
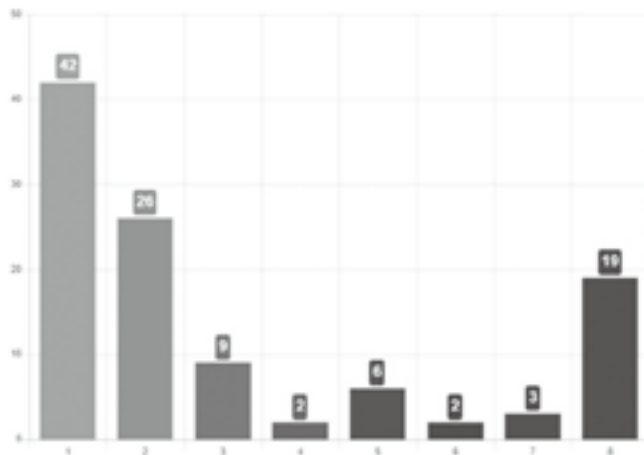
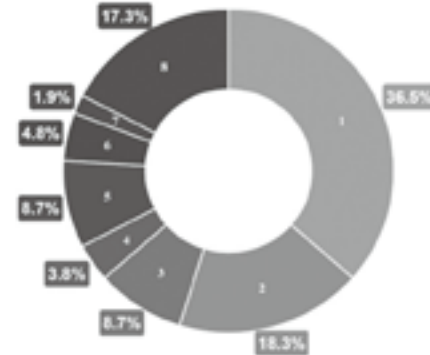
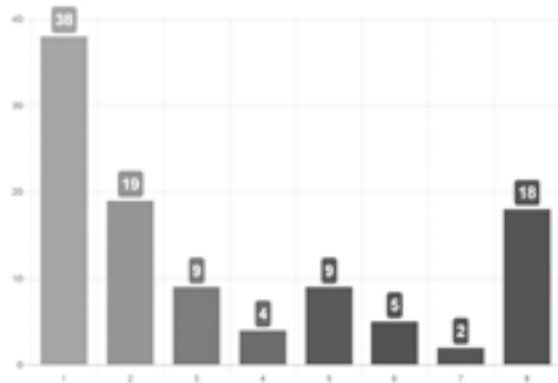


問4) 就職を決める際の問題点は何でしたか。

1. やりたい仕事明確になっていない。
2. 希望する職種の求人が少ない
3. 希望勤務地の求人が少ない
4. 希望賃金の求人が少ない
5. 求人内容がよくわからない
6. 相談できる人がいない
7. 資格が取れていなかったため応募できなかった
8. その他 ()

(4) 就職を決める際の問題点は何でしたか。

1) やりたい仕事明確になっていない。 38 (26.5%)	2) 希望する職種の求人が少ない。 19 (13.3%)	3) 希望勤務地の求人が少ない。 9 (6.7%)	4) 希望賃金の求人が少ない。 4 (3.8%)
5) 求人内容がよくわからない。 9 (6.7%)	6) 相談できる人がいない。 5 (4.8%)	7) 資格が取れていなかったため応募できなかった。 2 (1.9%)	8) その他 18 (17.3%)



昨年と同様に進路決定のための活動として「親や知り合いに相談した」が最も高い。変化としては「インターネットで調べた」の項目の割合が増えた。これは進路決定の際に新型コロナウイルスによる影響により学校に投稿できず、自分で調べる機会が多くあったことが挙げられるだろう。ただ、自分から求人や進路について調べることができる学生と、そこに困難さを感じている生徒とで少し差が生まれているのではないかと。であれば、困難さを感じている学生に対して学校側からの働きかけが重要になってくる。進路に関する調べ方や、相談の仕方も含め、学生が前向きに進路に向かっていけるような支援が必要であろう。

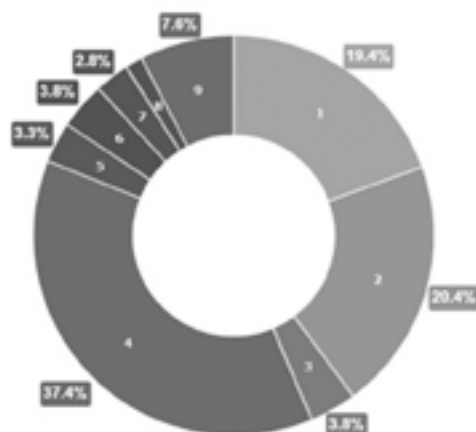
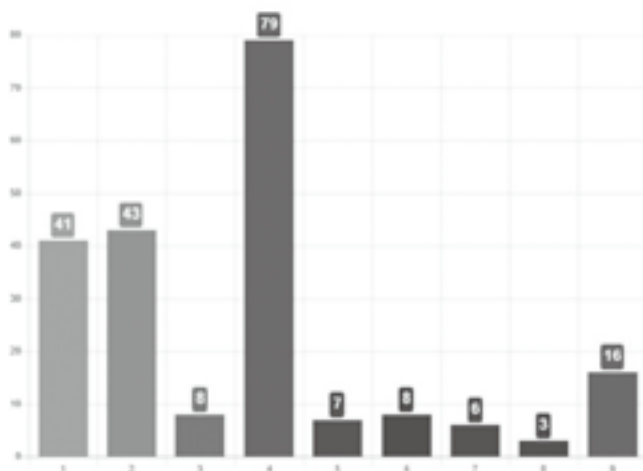
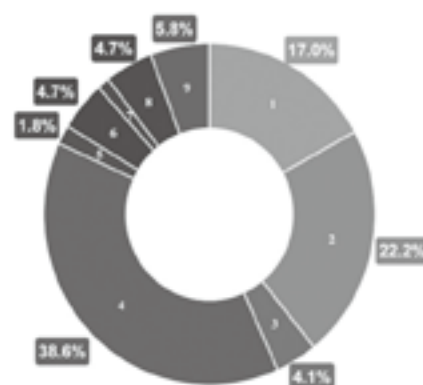
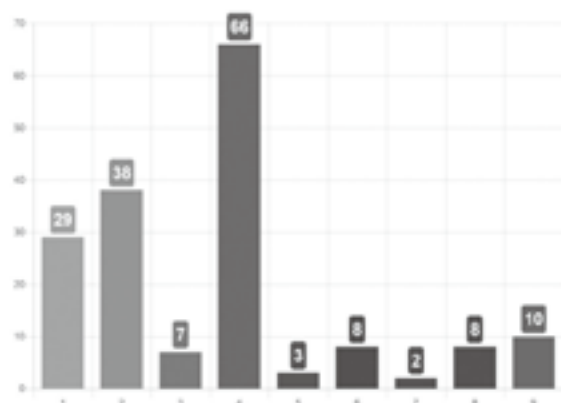
昨年度との違いについては大きい変化は見られなかった。進路決定後に振り返りで学生が感じた問題点として「やりたい仕事が明確になっていない」と回答した学生が多く見られた。このことから就職を目指す学生の多くが、自分がどのような仕事をしたいのか、どんな働き方を目指したいかについて悩みを持っていたことがわかる。この要因として、自分がどのような仕事に向いているのかといった職業適性への理解が乏しいことや、職業に関する理解や情報不足が考えられるのではないかと。学生それぞれの適性への理解を促すカリキュラムや、職業に関する情報提供を行うことで学生が感じる問題点を減らすことができると考えられる。

問5) 進路決定の際に最も相談しやすかった人は誰になりますか。

- | | | |
|--------|-------------|------------|
| 1. 担任 | 2. 進路の先生 | 3. その他の先生 |
| 4. 保護者 | 5. 兄弟 | 6. その他の大人 |
| 7. 先輩 | 8. アルバイト先の人 | 9. その他 () |

(5) 進路決定の際に最も相談しやすかった人は誰になりますか。

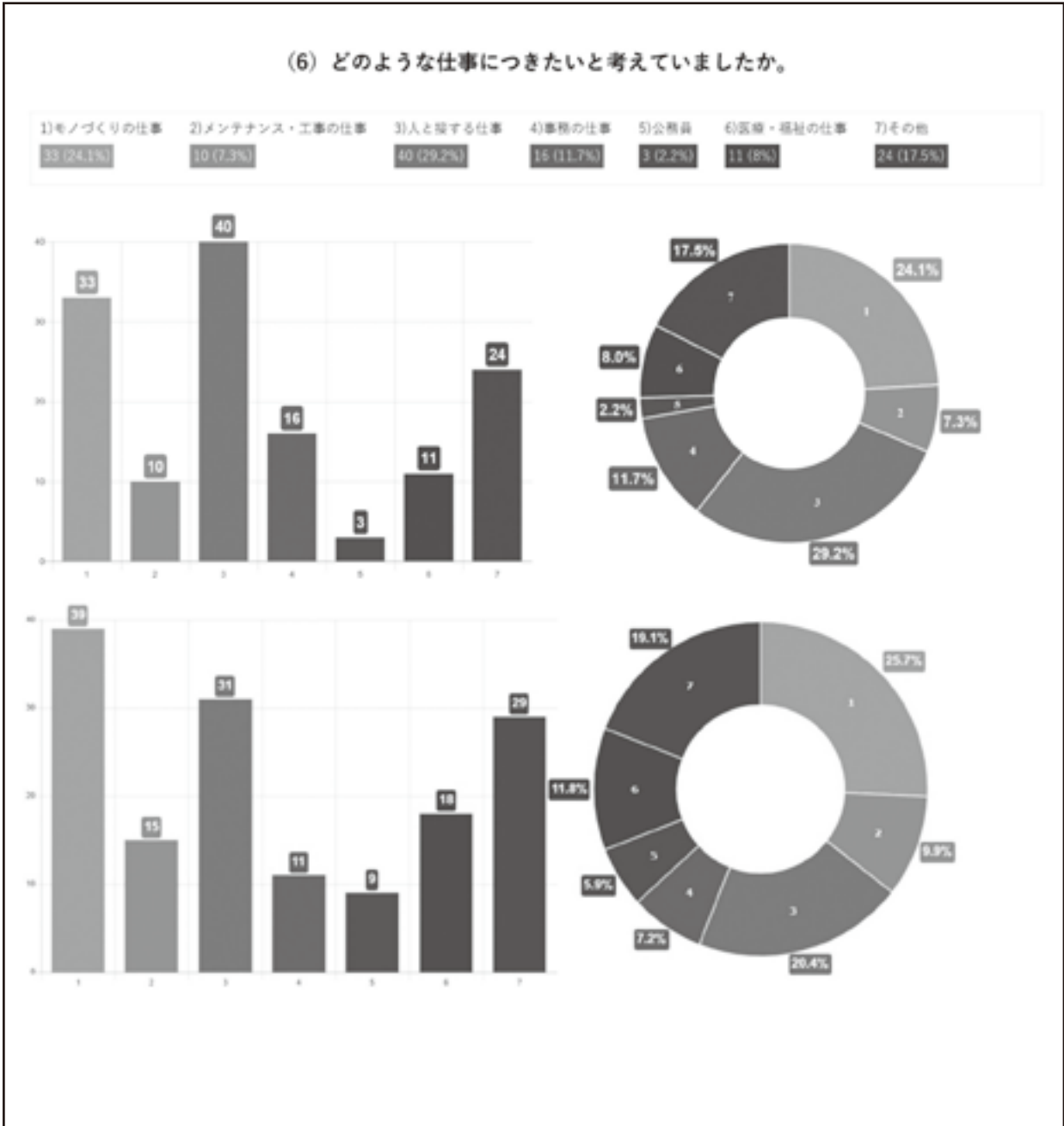
1)担任	2)進路の先生	3)その他の先生	4)保護者	5)兄弟	6)その他の大人	7)先輩	8)アルバイト先の人	9)その他
29 (17%)	38 (22.2%)	7 (4.1%)	66 (38.6%)	3 (1.8%)	8 (4.7%)	2 (1.2%)	8 (4.7%)	19 (5.8%)



最も進路について相談しやすかった人として「保護者」と答えた生徒が最も多かった。やはり一番長く接している家族や保護者に相談がしやすいということだろう。次点で「進路の先生」「担任」と回答が多くあがった。このことから進路について家族や保護者に相談しやすい学生と、逆に相談しにくいため担任や進路の先生に相談する学生に分かれていることがわかる。保護者等に相談しにくい要因としては、家族関係や進路に関しての意見の食い違いなどが考えられる。そういったときに学校や先生に相談しやすい環境や関係づくりが重要であると言えるだろう。昨年度との違いはそこまで見られなかった。

問6) どのような仕事につきたいとかがえていましたか。

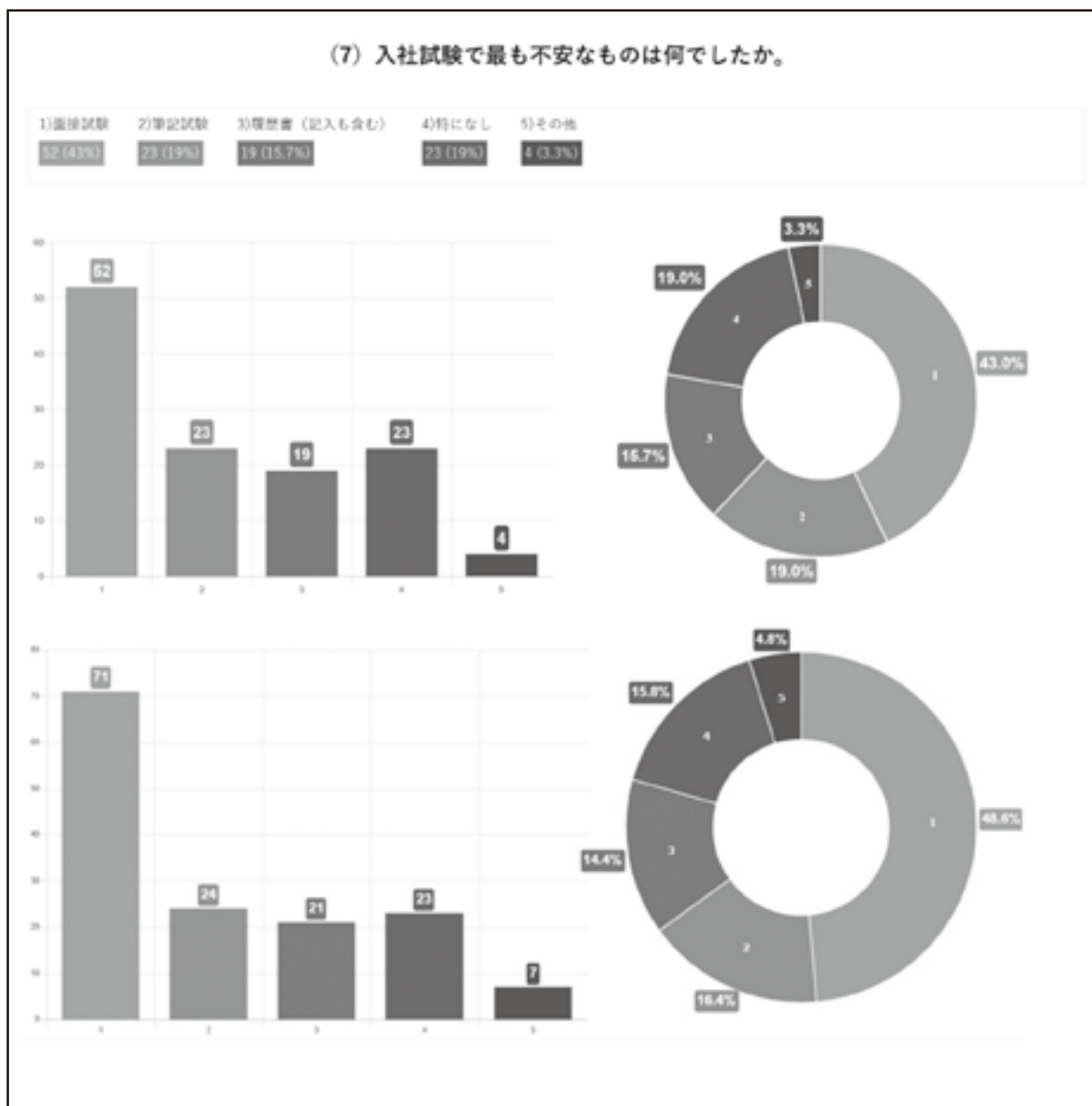
- 1. モノづくりの仕事
- 2. メンテナンス・工事の仕事
- 3. 人と接する仕事
- 4. 事務の仕事
- 5. 公務員
- 6. 医療・福祉の仕事
- 7. その他 ()



希望していた職業としては「人と接する仕事」「モノづくりの仕事」が高くあがってはいたが、昨年の結果からの違いとしては、新型コロナウイルスによる影響が関係しているのか、人と接する仕事とモノづくりの仕事の順位が逆転した。その他の回答として「飲食に関連する」仕事に関してはやはり危機感が高まっていることから回答が極端に減少しているように見受けられた。

問7) 入社試験で最も不安なものは何でしたか。

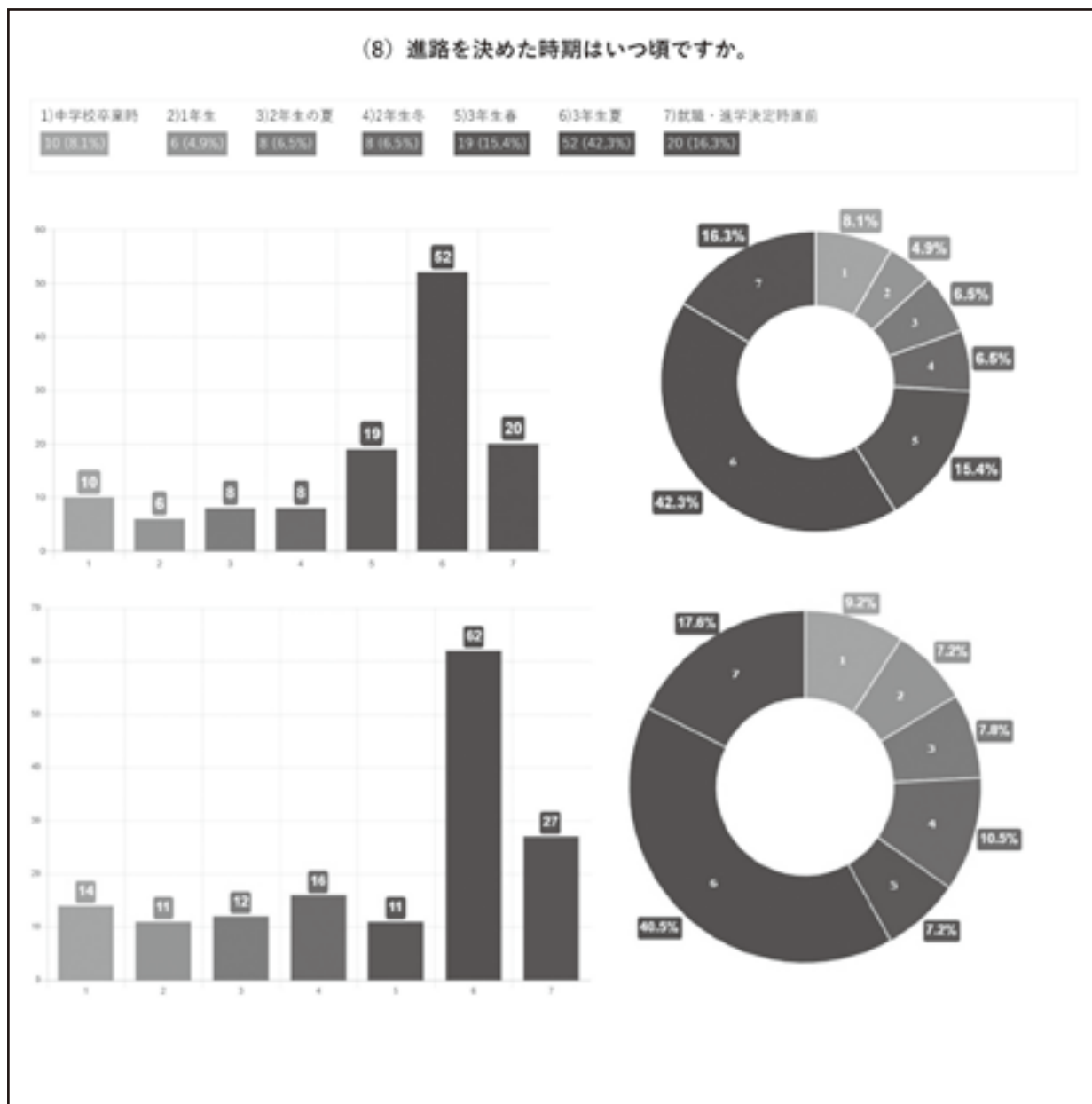
1. 面接試験 2. 筆記試験 3. 履歴書（記入も含む）
 4. 時になし 5. その他（ ）



昨年と同様に、多くの学生が「面接試験」に不安を感じていることがわかる。面接でのマナーや立ち振る舞いなどに関して不安を感じている学生も多いだろう。面接だけではなく、社会人としての必要なマナーや知識に関して学べるカリキュラムが必要だと感じる。また、コミュニケーションを必要とする試験に不安を感じている学生も多いことが考察できる。同様にコミュニケーション能力を身に付けるカリキュラムも必要だろう。また、今年から、面接がビデオ通話等を活用したオンライン面接が導入されたこともあり、オンライン面接に対しての不安に対する回答も見られた。

問8) 進路を決めた時期はいつ頃ですか。

- 1. 中学校卒業時 2. 1年生 3. 2年生の夏
- 4. 2年生の冬 5. 3年生の春 6. 3年生の夏
- 7. 就職・進学決定時直前



昨年と変わらず、回答として最も多かったのは「3年生の夏」であった。また昨年と比較して「3年生の春」の割合が減少している。時期としては新型コロナウイルスによる影響が大いにあった時期であるため、春に決める学生が減り、夏以降に決める学生が増えたということではないかと推察される。また、昨年同様に3年生に進路を決めた学生が全体の7割となっている。これはコロナウイルスによる影響ではなく、専修学校での学生生活の間に様々な勉強や体験を通じて、最終的に3年生の時期に決める学生が割合として多いことがわかる。